



ステント(George Carter Stent)の生涯と著作

著者	李 晶?
雑誌名	文化交渉 : Journal of the Graduate School of East Asian Cultures : 東アジア文化研究科院生論集
巻	7
ページ	79-96
発行年	2017-11-30
その他のタイトル	The Life and Works of George Carter Stent
URL	http://hdl.handle.net/10112/11531

ステント (George Carter Stent) の生涯と著作

李 晶 鑫

The Life and Works of George Carter Stent

LI Jingxin

Abstract

Many English-Chinese dictionaries have been compiled since the publication of Robert Morison's *A Dictionary of the Chinese Language*. Among these dictionaries, George Carter Stent's *A Chinese and English Vocabulary in The Pekinese Dialect* stands out with a number of unique features.

G. C. Stent came to China in the 1860s as a guard for the new British Legation. He translated many works of Chinese literature into English, and published three dictionaries. Unfortunately, at the present very little research about Stent's life and work has been undertaken. There are many questions still to be answered, such as Stent's family and educational background, his motivation for learning Chinese, and his experience studying the language and so on.

This paper investigates Stent's life, then looks at the influence of his life experiences on his understanding of Chinese.

Keywords: 司登得、生平、著作、汉英合璧相连字汇

はじめに

19世紀の中国において多くの英華、華英辞書が編纂された。その中でも、ステント (George Carter. Stent, 1833-1884) の『漢英合璧相連字彙』(以下『字彙』と略す) は独自の風格を持っている。

ステントは当時の名高い学者の一人であったが、現時に至るまでにステントとその著作に関する研究は多いとは言えない。ステントとその著作に関する最初の論文は那須雅之 (1993) 「G.C.Stentとその著書について -A Chinese And English Vocabulary In The Pekinese Dialect (《漢英合璧相連字彙》) を中心として」である。那須氏はステントの略歴とその著作を初めて簡単に紹介し、『字彙』を重点として辞書の構造、関連辞書の伝承状況を述べた。それ以降の主な先行研究は、宮田和子 (2010) 『英華辞典の総合的研究—19世紀を中心として』(pp.254-257、307-308)、沈国威 (2011) 『近代英華華英辞典解題』(pp.153-162) と高永偉 (2012) 『辞海茫茫-英語新詞和词典之研究』(pp.274-284) である。宮田 (2010) はステントの三つのバージョンの辞書の属性を纏め、注釈部分にステントの生涯を紹介し、一方で、沈 (2011) は初版『字彙』の序言の漢訳版を掲載し、『字彙』に対する解題と短評をほどこした。しかし、先行研究及びステントに関する文章は全てステントの『字彙』を中心として討論しているものであり、ステントの生涯とその著作に関しては、依然として多くの問題が残されている。

ステントの生涯とその著作について、先述のように那須氏は *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society (Jour.N.C.B.R.As.Soc)*¹⁾ という本を土台として、他の若干の文献²⁾ 及びステントの著作の断片的情報とを総合し、ステントの略歴を描き、以下5点の情報を提示した³⁾ : ①1833年イギリスのカンタベリーに生まれ、1884年台湾高雄に死去した。②宣教師ではなく、清国税関の公務員である。③1869年英国公使館警護を担当し、そのきっかけで来華した。後に清国関税庁に移り、数年間上海、芝罘、温州、汕頭等の各地で勤務、1883年には高雄税関補佐となった。④来華後中国語勉強を始め、当時の英国公使館主席書記官ウェード (Francis Tomas Wade, 1818-1891) はステントの語学的才能を認め、自身でステントを手助けた。⑤ステントは1871年から『字彙』を始めとする10部の作品をそれぞれ刊行していた。那須氏はステント来華以降の略歴を少し論じているが、例えば、ステントの家庭状況、学歴、中国語学習歴、学習動機などの問題は論じられていない。那須氏の論文以外には、高 (2012) がステント

1) *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society. For New Series*, Vol.XX, 1885, pp.58-59.

2) 那須氏はステント来華以前の資料が見当たらないと述べている。来華以降の資料について那須氏は若干の資料があると述べているが、詳しい研究文献は *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society* しか明示していない。

3) 那須雅之 (1993) 「G.C.Stentとその著書について -A Chinese And English Vocabulary In The Pekinese Dialect (《漢英合璧相連字彙》) を中心として」、『中国語学』、第240期、pp. 123。

の生涯を論じており、ステントの家庭状況を初めて描写した。

ステントの生活と学習状況は彼の漢語観に対して直接に影響を与えるものであり、ステントが『字彙』を編纂した時、語彙の選択、意味の理解、翻訳の方法などに波及した可能性もあると考えられ、ステントの履歴を先行研究に基づいて、より詳細に整理する必要があるだろう。したがって、本稿はそのような問題意識に基づき、ステントに関する資料を再度調査するつもりであり、生涯と著作の二つの側面からそれぞれ検討し、ステントの生涯を可能なかぎり完全に描写してみたい。

一、ステントの生涯

ステントに関する詳細な資料は、管見のかぎり現時点では多いとは言えない。この部分は先行研究を土台として、以下の資料と総合し、ステントの生涯に関して、より詳しい情報を加えて提示したい。

- ① G.C.Stent (1882), *Scraps From My Sabretasche*, London: W. H. Allen & CO.
- ② G.C.Stent (1871), *A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect*, Shanghai
- ③ K. E. G. Hemeling (1905), *A Dictionary from English to Colloquial Mandarin Chinese*, Shanghai
- ④ Henri Cordier (1904-1907), *Bibliotheca Sinica*, Paris: Librairie Orientale & Américaine
- ⑤ Richard J. Smith, John K. Fairbank, Katherine F. Bruner (1991), *Robert Hart and China's Early Modernization*, London, pp. 370, 532
- ⑥ *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society. For New Series*, Vol.XX, 1885, pp.58-59
- ⑦ 字林報, *The North-China Daily News (1864-1951)*, 1871.11.9, 1872.10.25, 1872.12.30, 1873.5.23, 1874.2.9, 1874.6.3, 1877.9.25, 1883.10.10
- ⑧ 北華捷報 (最高法廷と領事公報), *The North-China Herald and Supreme Court & Consular Gazette (1870-1941)*, 1871.12.21, 1874.5.2, 1876.8.8, 1884.9.25-26
- ⑨ 陈霞飞 (1990), 中国海关密档: 赫德·金登干函电汇编1874-1907, 北京: 中华书局, 卷三, p. 241
- ⑩ 中国近代来华外国人名辞典, 中国科学研究院近代史研究所翻译室, 1981, 北京: 中国社会科学出版社
- ⑪ The Takao Club - George Carter Stent⁴⁾

4) この資料は www.takaoclub.com/personaliti-es/Stent/index.htm により搜したものである。この文章は詳しくステントの家庭状況と生活習慣を述べている。後文で The Takao Club に引用した内容はすべて「*」で表明する。

1、ステントの家庭状況

ステント (George Carter. Stent) は1833年6月15日にイギリスのカンタベリーで生まれた。彼は兄二人 James William と Chailes Frederic と姉一人 Julia Ellen がいた*。ステントの父はフルーツショップと野菜農場を一つずつ経営していたが、家庭状況は良くないようであった。1960年代にステントは最初の妻と結婚し、離れて暮らしていたことが原因で、1878年7月に離婚した。1879年、ステントとイギリスのエセックス出身のサラ (Sarah Ann Page, 当時21歳) と出会った。同年ステントはCMC ロンドンオフィスで新しい遺書を書き、すべての財産をサラに譲り、ステントの兄弟と姉には少しだけの財産を残すことにした*。この遺書の立会人はマルス (Hosea Ballou Morse, 1855-1934) とテイラー (F. E. Taylor) である*。翌年、サラは、ジョージ・カーター・アルバート・ページ (George Carter Albert Page) と名づけられた息子を産み、この子は「ベルティ (Bertie)」と呼ばれた*。

2、ステントの履歴

ステントは高等教育を受けず、元々は兄の一人 James と一緒に家業を継ぐつもりであった*。しかし、原因は不明だが、1855年ステントは家を離れ、イギリスの第14国王軽騎兵団 (14th King's Light Dragoons) に参加し、インドのフーグリー (Chinsurah)、メーラト (Meerut)、カドキ (Kirkee)、アウランガーバード (Aurangabad)、サーガル (Saugor)、マルソン (Maltone)、ジャーンシー (Jhansi)、コンチ (Koonch)、カルピ (Kalpee)、グワーリヤル (Gwalior) とパキスタンのラホール (Lehore) などの場所に派遣されて勤務していた。ステントの兵営生活については、自身が書いた追想録、*Scraps From My Sabretasche* という本にすべて詳細に述べられている。高永偉は、1857年から1858年までの一年間、インドで反乱が発生し、ステントのいる軍隊が反乱地に派遣され、乱を鎮め、その功績によって勲章を賜ったということ述べている。⁵⁾ 追想録と結び付けて見ると、ステントは有名なインド大反乱⁶⁾の部分戦争に参加した可能性が高い。ステントの帰国に関する資料は見当たらず、帰国時期は不明である。

その後、ステントは中国に来た。ステントは宣教師ではなく、英国公使館警護として来華した。一方で、彼はフリーメイソンの成員の一人であり、階級は職人 (Craft) である。入会時期は不明である。ステントがフリーメイソンのメンバーであったという情報は以下に挙げるステントの訃報記事⁷⁾の中に見出すことができる。

5) 高永偉 (2012)、『辞海茫茫 - 英語新詞和词典之研究』、上海：复旦大学出版社、pp. 274。

6) インド大反乱 (Indian Rebellion) は、1857年から1859年の間にインドで起きたイギリスの植民地支配に対する民族的反抗運動である。

7) 北華捷報 (最高法廷と領事公報), *The North-China Herald and Supreme Court & Consular Gazette* (1870-1941), 1884.9.25, 9.26。

The Late MR. G. C. Stent

……

Mr. Stent was also well-known as a zealous Mason, and his loss will be felt by many members of the Craft, in which he had attained well earned distinction.

ステントの来華時間と中国語学習歴について、*Jour.N.C.B.R.As.Soc.* に「1869年に来華し、英国公使館警護隊に勤務、来華以後中国語に興味を抱いた」⁸⁾と明確に述べたが、筆者は様々な資料を分析し、再度検討する必要があると考える。

最初にこの問題を提出したのは高永偉である。⁹⁾ 高氏は従来の来華時間より早く、ステントが約1860年代中期ぐらいに来華したという観点を示す。高氏の論点は具体的には次のとおりである。

ステントの初版『字彙』の序言に以下の内容がある。

…… Some years ago, while residing in Peking, it was my intention to endeavor to translate a Chinese novel into English. This involved a good deal of reading to enable me to select one suitable for the purpose. ……

1871年11月1日

Shanghai

ステントが序言を書いた時期は1871年11月1日である。序言を解説すれば、ステントは数年前に北京に住んでいたということになり、その後も何年間か上海に住んでいたことがわかる。その序言の内容と「1869年に来華した」という情報が一致しないことから、高氏は「ステントは1860年代中期に来華したはずだ」という推論を下した。

筆者は *Robert Hart and China's Early Modernization*¹⁰⁾ という本の第370ページに次のような内容を発見した。

Friday. 16 March 1866; At daybreak narrowly escaped shipwreck.

……

The tide surveyor, Stent, is an inferior kind of man, & not at all what I hoped to find him.⁹⁾

8) *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society. For New Series*, Vol.XX, 1885, pp.58.

9) 高永偉 (2012)、『辞海茫茫- 英語新词和词典之研究』、上海：复旦大学出版社、pp. 274。

10) ハートの日記である。ロバート・ハート (Robert Hart, 1835.2.20-1911.9.20)。

ハート日記の整理者はStentという人に線を引き、第9番の注記を施し、その後第532ページにおいてこのように書いている。

9. It is possible that Hart was disappointed in the tide surveyor because he knew other more capable people of the same name. George Carter Stent, For example, who would join the Customs in 1869, was the author of Chinese-American dictionaries, translations, etc

この日記はハートが1866年3月16日に書いたものであり、全文は長いため引用は控える。引用していない部分はおおよそハートが台風に遭って、危うく死にそうになったことを記述しており、日記の最後が引用箇所であり潮汐監視員の「Stent」という人物を批判している。第9番の注記では二人の「Stent」の相違を検討しており、下線の「Stent」は本論の研究対象であるステントではなく、単なる同名の潮汐監視員の一人であるということがわかる。興味深いのは、注釈部分におけるもうひとりのステント、つまり本論の研究対象であるステントが1869年には清国関税庁で勤務を始めるということを記録しているという点である。換言すれば、1869年にステントはすでに英国公使館を離れ清国関税庁での勤務を始めたということである。このことはヘメリング (K. E. G. Hemeling, 1878-1925) の *A Dictionary from English to Colloquial Mandarin Chinese*¹¹⁾ の序言部分 (1905) も記録されている。

……

George Carter Stent was born at Canterbury, England, on 15th June 1833. He was first appointed to the Chinese Customs Service in March 1869, and at the time of his death, in September 1884, was Assistant in charge of the Custom House at Takow, in Formosa. ……

一方で、序言の言う通りにステントは数年前に北京に居住していた時に、中国小説を翻訳する意欲があったことがわかる。しかし、上述序言の内容と *Jour.N.C.B.R.As.Soc* の記述とを総合すると、ステントは1869年来華した後で中国語に興味を抱き、すぐに中国小説を翻訳したくなるというのは、不自然ではないかと思われる。

つまり、筆者の調査によって、先行研究では明らかにされていなかったステントの経歴のいくつかを明らかにすることが出来たが、特に、ステントの来華時期に関しては、ステントが初版『字彙』の序言に書いた内容と先行研究の内容が一致していないことから、再度検討する必

11) この本はヘメリングが1905年に編纂した『字彙』の改訂版である。

要があると考えられる。先述に挙げた資料から得られた全ての情報を総合すると、筆者はステントは1869年よりも以前、1860年代中期に来華したと判断する。その理由は三つがある。①先行研究によると、ステントは英国公使館警護として来華し、後に清国関税庁に移り勤務を始め、来華以前には中国語を勉強していないということが確認できる。¹²⁾ ②多くの文献が、ステントが清国関税庁で仕事を始めたのは1869年であったと記録している。③初版『字彙』の序言から見ると、来華時間にかかわらず、ステントは1869年以前に中国語を勉強した可能性が非常に高いと考えられる。以上の根拠により、ステントは1869年より早くに来華したはずであったと考えられる。¹³⁾

全ての情報を総合すると、ステント来華以後の履歴は次のようなものである。

1860年代中期

ステントは英国公使館警護を担当したことがきっかけで来華して北京に住んでいた。来華後、ステントは中国語学習を始める。当時の英国公使館主席書記官ウェードはステントの語学的才能（特に口語的才能）を認め、自身でステントを手助けた。その後、ステントは中国小説と歌謡に次第に興味を持つようになり、中国小説を翻訳する意欲が徐々に強くなる。

1869年

ステントは清国関税庁に移り、ロバート・ハート (Robert Hart, 1835.2.20-1911.9.20) の援助を受け、精力的に中国語を学習していた。

1871年

6月9日ステントの処女作である *Chinese Lyrics* はロイヤルアジア文会北中国支会誌 (*Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society*) に発表され、生涯にわたりステントは大量な中国歌謡、民謡、詩歌と戯曲を翻訳した。同年11月『漢英合璧相連字彙』 (*A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect*) が上海で出版された。

1873年

ステントは通文西報 (*Shanghai Evening Courier*) に投稿を開始した。同年に最初の詩集 *Fanning the Grave and the Wife tested* と最初の戯曲の訳本 *Jên Kuei's Return. - A Play. [From the Chinese]* を出版した。

1874年

12) ステントの来華後の職歴は *Jour.N.C.B.R.As.Soc* (Vol.XX, 1885, pp.58) に少し記録していた。その以外に『近代来華外国人名辞典』(1981)の第456頁と *The Takao Club* にも垣間見ることができる。

13) ステントは英国公使館として来華した同年に清国関税庁での仕事に従事した可能性もあるが、ただし、もしそうであったとしたら、彼が中国語学習を開始してから『字彙』の編纂まで3年しかなかったことになる。これは無理ではないかもしれないが、極めて困難であると考えられるだろう。したがって、ステントがまず英国公使館警護として来華してから清国関税庁に移るまで相応の時間間隔があった可能性が高いと考えられる。清国関税庁で仕事を始めた年代が1869年であることは确实だと考えられるため、英国公使館警護の職についていた時期はさらに遡って考える必要があるだろう。

A Chinese and English Pocket Dictionary という英華袖珍辞書を上海で出版し、同年 *The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs* という詩集を出版した。

1875年

2月25日、通文西報に最後にステントの文章が掲載され、それ以降通文西報にステントの文章が掲載されなかった。

1876年

ステントの文章の体裁は徐々に変化していき、初期は評論的な文章を大量に試している。このような文章は1876年から次々に中国評論 (*The China Review*) に掲載された。一方、11月からステントはザ・ファー・イースト・ニューシリーズ (*The Far East new series*) に投稿を開始した。

1877年

第二版の『漢英合璧相連字彙』を出版した。

1878年

Entombed alive and other Songs を出版した。

1882年

ステントは台湾高雄港に派遣され、台湾でステントはインド時代の生い立ちを整理して追想録、*Scraps From My Sabretasche* を編纂してロンドンで出版した。

1883年

5月、高雄税関補佐となった。

1884年

9日1日、ステントは高雄で死去した。

二、ステントの諸著作

ステントは1871年から、1884年までに各種の著作を次々に編纂し、その十数年間は大量の文章が雑誌と新聞に掲載され、多数の著書も出版された。彼の諸著作についてアンリ・コルディエ (Henri Cordier, 1849-1925) はできる限りに網羅して *Bibliotheca Sinica* (ビブリオテカ・シニカ)¹⁴⁾ に詳しく記録している。筆者は第二版の *Bibliotheca Sinica* (1904-1907)¹⁵⁾ に記録されているステントの作品をすべて調査し、文章類と著書類の二つに分類し紹介する。

14) Henri Cordier (1904-1907), *Bibliotheca Sinica*, Paris: Librairie Orientale & Américaine.

15) 筆者は二版本の *Bibliotheca Sinica* を対照し、初版 (1881-1893) はステントの諸著作をすべて網羅しているとは言えない一方、第二版はより完全に記録されていると考えられ、第二版の *Bibliotheca Sinica* を選択した。

1、文章類

雑誌或いは新聞の名前による各種類の文章を整理して以下に示す。

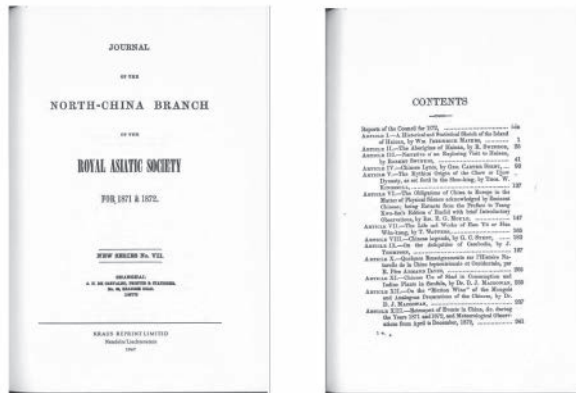
- ① *Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society* (*Jour.N.C.B.R.As.Soc*、『ロイヤルアジア文会北中国支会誌』)。

ステントはロイヤルアジア文会北中国支会の会員であり、1871年からその学会を所属する *Jour.N.C.B.R.As.Soc* という雑誌で三つの文章が掲載されている。

表 1

文章テーマ	説明	<i>Bibliotheca Sinica</i> における分類	<i>Bibliotheca Sinica</i> における頁数
<i>Chinese Lyrics</i>	<i>Jour.N.C.B.R.As.Soc.</i> , New Series, for 1871&1872. Read before the Society no 1871.6.5, Shanghai: A. H. de Carvalho, 1873, No VII., Art. IV, pp. 93-135.	LANGUE ET LITTÉRATURE/ SCIENCES ET ARTS/ LITTÉRATURE	pp. 1795, 2243, 1573
<i>Chinese Legends</i>	Ibid. Read before the Society no 1872.6.12, Art. VIII, PP. 183-195.	LITTÉRATURE	pp. 1795, 2243
<i>Chinese Eunuch</i>	Ibid., Read before the Society no 1877.3.26, Shanghai: Printed at the "Celestial Empire" Office, 1877, No. XI, Art. V, PP. 143-184.	MOEURS ET COUTUMES	pp. 1850, 2245

「中国歌曲」(*Chinese Lyrics*) は筆者が調査した限りにおいてステントの処女作である。この文章は五つの中国民謡を収録し、英語の訳語を付け、珍しいのは歌曲の五線譜も文書と共に掲載されている。翌年ステントは「中国伝説」(*Chinese Legends*) を発表している。その二つの文章はそれぞれ1871年と1872年に既に発表していたが、1873年の *Jour.N.C.B.R.As.Soc* に掲載された。1877年、ステントは「中国宦官」(*Chinese Eunuch*) を発表している。この文章は中国の宦官制度、特に宦官の去勢方法を詳細に紹介し、その内容は強い影響力を持ち、1870年代後期にドイツ語に翻訳されて、ライプツィヒで出版されている。上述三篇文章の範囲は広く、ステントが中国の歌謡、伝説、伝統に興味を抱いていることを垣間見ることができる。



注：Jour.N.C.B.R.As.Soc、関西大学図書館所蔵。写真は1873年刊の扉とその目録であり、ステントの文章はArt. IVとArt. VIIIである

図1

② Shanghai Evening Courier (『通文西報』)

*Shanghai Evening Courier*¹⁶⁾は1867年8月にバルフ (Frederic H. Balfour, 1846-1909) により創刊され、翌年、イギリス出身のシュラン (Hugh Lang, ?-1875) が編集長となり、1875年に停刊した新聞である。他紙の競争するために、大量の記者を雇い、全国各地の駐在地に派遣していた。ステントが雇われたかどうか現在までに確認できていないが、1873年から1875年までステントは22編の文章を書き、度々発表していた。

表2

文章テーマ	説明	<i>Bibliotheca Sinica</i> における分類	<i>Bibliotheca Sinica</i> における頁数
<i>Fanning the Grave</i>	<i>Shanghai Evening Courier & Shanghai Budget.</i>	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Wife tested</i>	Ibid., May 24, 1873.	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Flute of Chang liang</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Crossing the Ferry or Pickaback Love</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Beautiful Snow</i>	Ibid., June 14, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Enchanted tree</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Yang-kuei-fei (A Chinese Anacreontic)</i>	Ibid., June 28, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Silken Meshes</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Dream-music</i>	Ibid., July 19, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The death of 《Yang-kuei-fei》</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795

16) 『通文西報』、別名『上海通信晚報』、『晋源報』という。筆者は本物を未見したが、上海地方誌で紹介されているのを確認した。

<i>The Chain Puzzle</i>	Ibid., July 26, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Chang Pan Po or Queen Mi's Devotion</i>	Ibid., Aug. 9, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Grave of Yang kuei-fei</i>	Ibid., Aug. 23, 1873	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Buried alive</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Stone Lions of Lu-Kou Bridge</i>	未知	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Skeleton trees or the Suicides' haunt</i>	Ibid., Sept. 19, 1874	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Legend of the Ching Dynasty</i>	Ibid., Sept. 26, 1874	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Race for a Throne</i>	Ibid., Jan. 14, 1875	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Yu-chi's death</i>		LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Emperor's tree</i>	Ibid., Jan. 28, 1875	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Moving Fir.</i>	Ibid., Feb. 18, 1875	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>The Insects' Prophecy or the death of King Pa</i>	Ibid., Feb. 25, 1875	LITTÉRATURE	pp. 1795

Shanghai Evening Courier は、筆者は未見であり、すべての情報は *Bibliotheca Sinica* (図2) に記録する内容に基づいて整理した。*Bibliotheca Sinica* は完全な掲載時間を示していなくても、掲載状況をほぼ完全に記載していると考えられる。文章体裁は記録されていないが、ただし、文章の一部はステント後の著書、*The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs.*¹⁷⁾ として刊行されているので、約三分の一は歌謡ということが確認できる。ウィリアムズ (Samuel Wells-Williams, 1812.9.22-1884.2.18) は1883年にステントの事業を記述して、「ステント氏は *China Review* に中国をテーマとした散文や中国民謡の翻訳を度々発表しており、それらは後に詩集 *The Jade Chaplet* として刊行 (1874) されている。」と述べるが、¹⁸⁾ 今回調査した限りにおいて1874年以前ステントはまだ *China Review* に発表しておらず、*The Jade Chaplet* として刊行されている文章の一部が *Shanghai Evening Courier* に選択したと考えられる。ステントが *China Review* に掲載している文章は後文で紹介する。

③ *The Far East new series* (『ザ・ファー・イースト・ニューシリーズ』)

The Far East は、J. R. ブラック (J. R. black) が横浜・東京で発行していた『ザ・ファー・イースト』(1870.5-1875.8) に続き、上海にて『ザ・ファー・イースト・ニューシリーズ』と

 — G. C. S.[tent.] — Fanning the Grave. — The Wife tested. (*Shanghai Evening Courier & Shanghai Budget*, May 24, 1873.) — The Flute of Chang liang. — Crossing the Ferry or Pickaback Love. — Beautiful Snow. (*Ibid.*, June 14, 1873.) — The Enchanted tree. — Yang-kuei-fei (A Chinese Anacreontic). (*Ibid.*, 28 June 1873.) — Silken Meshes. — Dream-Music. (*Ibid.*, July 19, 1873.) — The death of « Yang kuei-fei ». — The Chain Puzzle. (*Ibid.*, July 26, 1873.) — Chang Pan Po or Queen Mi's Devotion. (*Ibid.*, Aug. 9, 1873.) — The Grave of Yang kuei-fei. (*Ibid.*, Aug. 23, 1873.) Buried alive. — The Stone Lions of Lu-kou Bridge. — The Skeleton trees or the Suicides' haunt. (*Ibid.*, Sept. 19, 1874.) — Legend of the Ching Dynasty. (*Ibid.*, Sept. 26, 1874.) — Race for a Throne. (*Ibid.*, Jan. 14, 1875.) — Yu-chi's death. — The Emperor's tree. (*Ibid.*, Jan. 28, 1875.) — The Moving Fir. (*Ibid.*, Feb. 18, 1875.) — The Insects' Prophecy or the death of King Pa. (*Ibid.*, Feb. 25, 1875.)

図2 *Bibliotheca Sinica* 第1795 頁

17) G.C.Stent (1874), *The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs, ballads &c. (From the Chinese)*, London. ステントを書いている中国歌謡の訳者という。

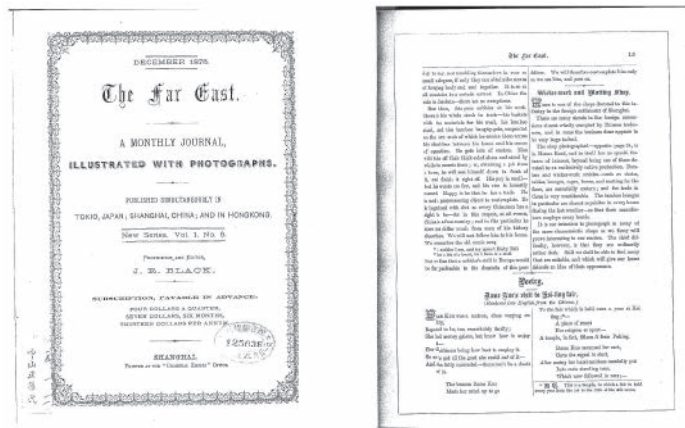
18) 那須雅之 (1993) 「G.C.Stentとその著書について-A Chinese And English Vocabulary In The Pekinese Dialect (《漢英合璧相連字彙》) を中心として」、『中国語学』、第240期、pp. 127。

して1876年7月から刊行を開始し1878年12月最終号までの全30号の新聞である。ステントはニューシリーズの創刊から1877年まで6篇の文章が掲載されている。

表3

文章テーマ	説明	<i>Bibliotheca Sinica</i> における分類	<i>Bibliotheca Sinica</i> における頁数
<i>Dame Kou's Visit to His-ting fair</i>	<i>The Far East</i> , new series, I, 1876.7, pp. 15-17	LITTÉRATURE	pp. 1796
<i>Don't marry a Widow. (Freely rendered into English from the Chinese).</i>	Ibid., I, 1876.8, pp. 34-37.	LITTÉRATURE	pp. 1796
<i>The Yellow Stork Tower. A Chinese Historical Drama, in two Acts.</i>	Ibid., I, 1876.9, pp. 57-66	LITTÉRATURE	pp. 1783
<i>Chinese Theatricals</i>	Ibid., I, 1876.10, pp. 90-96.	LITTÉRATURE	pp. 1781
<i>Inverted Facts</i>	Ibid., I, 1876.11, pp. 123-125.	LITTÉRATURE	pp. 1796
Murder will out	Ibid., II, 1877.1, pp. 9-11.	LITTÉRATURE	pp. 1796

掲載された文章の中の5篇は中国歌謡と戯曲の訳書であり、それ以外に「中国戯曲」(*Chinese Theatricals*) という文章は中国の戯曲の大体の形式、メロディー、劇場などが記述されている。各篇の文章は文章の長さに基づき、一枚か二枚の写真が挿入されているが、内容と無関係である。



注：The Far East new series、天理大学附属天理図書館所蔵。上図は雑誌の第1巻の扉とステントの Dame Kou's Visit to His-ting fair 第1頁である。

図3

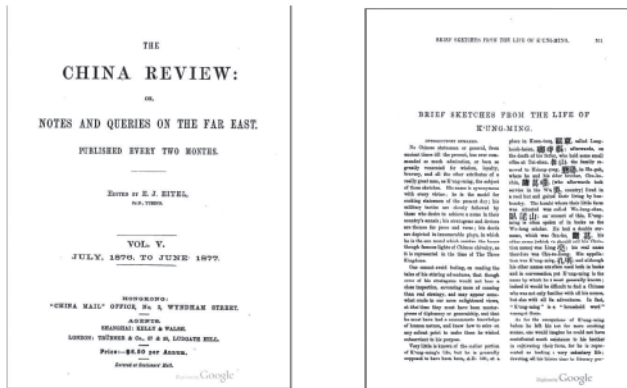
④ *The China Review* (『中国評論』)

The China Review は当時かなり影響力があった雑誌の一つである。ステントは1876年から1884年までに10篇の文章が掲載されている。

表 4

文章テーマ	説 明	<i>Bibliotheca Sinica</i> における分類	<i>Bibliotheca Sinica</i> における頁数
<i>Meng Cheng's Journey to the Great Wall</i>	<i>The China Review</i> , III, 1876, pp. 114-119, 149-158	LITTÉRATURE	pp. 1796
<i>The illness, death and funeral obsequies of Mr. Locust</i>	Ibid., III, 1876, pp. 312-316	LITTÉRATURE	pp. 1796
<i>Legend of the building of Peking or the Pursuit of the Water</i>	Ibid., 1877, IV, pp. 168-173.	GÉOGRAPHIE	pp. 215
<i>Brief Sketches from the Life of K'ung Ming</i>	Ibid., 1878-1881, V, pp. 311-319, 362-7; VI, 83-89, 173-180, 236-242 374-380, VII, pp. 33-38, 79-84, 219-228, 377-381; VIII, pp. 47-51, 117-122	HISTOIRE	pp. 671
<i>Legend of the bell Tower of Peking</i>	Ibid., 1878, V, pp. 241-3, Par Mr G.M.H. Playfair.	GÉOGRAPHIE	pp. 215
<i>Historical sketches</i>	Ibid., 1882, IX, pp. 376-380	HISTOIRE	pp. 593
<i>The double Nail murders</i>	Ibid., 1883, X, pp. 41-43	LITTÉRATURE	pp. 1779
<i>Ssü-Lang's visit to his mother</i>	Ibid., 1883, X, pp. 335-339	LITTÉRATURE	pp. 1779
<i>Minister Lin retiring from Office</i>	Ibid., 1884, XI, pp. 399	HISTOIRE	pp. 643
<i>Minister Lin and the Grain Officials</i>	Ibid., 1884, XI, pp. 398-399	HISTOIRE	pp. 643

ステントは旧来の印象と違って、*The China Review* に掲載された文章が涉獵する分野はより広く、内容は豊富になり、文化、地理、歴史に関する文章を発表している。これは中国に関して熟知していなければ書けないだろう。特に孔明の略歴 (*Brief Sketches from the Life of K'ung Ming*) は1878年から1881年まで連載して、孔明の生涯を主軸とし、三国時代の人物関係、地理環境と重要事件を叙述したシリーズの文章である。



注：The China Review。上図は Vol. 5 の扉と Brief Sketches from the Life of K'ung Ming の第1頁である。

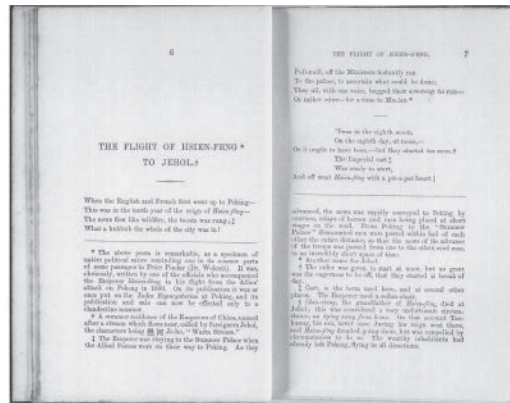
図4

⑤ Shanghai Budget (『上海予算』)

ステントは1874年に Shanghai Budget という新聞に一篇の文章を発表している。その新聞の情報は不明であり筆者は未見であるが、この文章は Entombed Alive and Other Songs という詩集 (1878) に掲載され、当時の官員を風刺した詩である。しかし、Bibliotheca Sinica においてなぜ GRANDE-BRETAGNE に分類されたのか不明である。

表5

文章テーマ	説明	Bibliotheca Sinica における分類	Bibliotheca Sinica における頁数
The Flight of Hisen Feng to Jehol	Shanghai Budget, Sept. 12, 1874	GRANDE-BRETAGNE	pp. 2379



注：上図はステント1878年に刊行した*Entombed Alive and Other Songs*の第6頁に掲載された*The Flight of Hisen Feng to Jehol*という文章である（東洋文庫所蔵）。

図5

2、著書類

ステントは1871年以前に著書はなく、1871年に初版『漢英合璧相連字彙』が出版されてから以降、11部の著作を次々書いている¹⁹⁾。

表6

文章テーマ	説明	<i>Bibliotheca Sinica</i> における分類	<i>Bibliotheca Sinica</i> における頁数
漢英合璧相連字彙 <i>A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect</i>	Shanghai: Printed and Published at the Customs Press, 1871	LANGUE ET LITTÉRATURE	pp. 1609
<i>Fanning the Grave and the Wife tested</i>	Shanghai: Printed and Published by Da Costa & Co, at the 《Ching-Foong》 Printing office. 1873, Price 50 cents Mex. br. In-8, pp. 12.	LITTÉRATURE	pp. 1795
<i>Jên Kuei's Return. - A Play. [From the Chinese]</i>	Shanghai: Printed and Published by Da Costa & Co, 1873, br. In-8, pp. 25	LITTÉRATURE	pp. 1783
<i>A Chinese and English Pocket Dictionary</i>	Shanghai, 1874	LANGUE ET LITTÉRATURE	pp. 1610
<i>The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs, ballads &c. (From the Chinese).</i>	MNCBRAS. London, Trübner 1874, in-8, PP. VIII-166	LITTÉRATURE	pp. 1796

19) ステントが死去した後に第二版による記念版（1887）、マックギリブレイによる改訂版（1898、第三版）、ヘミングによる改訂版（1905）がそれぞれ出版された。

漢英合璧相連字彙, <i>A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect</i>	Second Edition. Shanghai, 1877	LANGUE ET LITTÉRATURE	pp. 1610
<i>Entombed alive and other Songs, Ballads, &c. (From the Chinese)</i> .	London, William H. Allen & Co. 1878, in-8, PP. VIII-252	LITTÉRATURE	pp. 1796
<i>Scraps from my Sabretasche</i>	London: W.H. ALLEN & CO. 13 WATERLOO, 1882	未記録	未記録
漢英合璧相連字彙 <i>A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect</i>	Second Edition. 1887	未記録	未記録
漢英合璧相連字彙 <i>A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect</i>	Revised by Rev. Donald MacGillivray Third Edition. Shanghai: American Presbyterian Mission Press, 1898	LANGUE ET LITTÉRATURE	pp. 1610
<i>A Dictionary from English to Colloquial Mandarin Chinese</i>	K. E. G. Hemeling Published by Order of the Inspector General of Customs, 1905	未記録	未記録

ステントの著作は主に辞書である。初版『字彙』はステントの最初の著作であり、その販売状況は好調であり、1877年に内容を豊富にして再版した。その間、1874年におけるステントは *A Chinese and English Pocket Dictionary* という英華袖珍辞書を編纂し上海で出版した。この辞書は語彙と例句を列挙するのではなく、ただ漢字とその発音と意味を記述している。²⁰⁾ ステント死後、『字彙』は継続して出版され、マックギリブレイ (D. MacGillivray) による改訂版は第三版として1898年に出版されている。ただし、『字彙』による記念版 (1887) とヘメリングによる改訂版 (1905) は *Bibliotheca Sinica* に記録されていない。

辞書以外にステントはそれぞれ1873年、1874年と1878年において *Fanning the Grave and the Wife tested*、*The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs*、*Entombed alive and other Song* という三つの詩集を編纂した。その中に、*Fanning the Grave and the Wife tested* は筆者が未見であるが、ただ名前から見るとその詩集と *Shanghai Evening Courier* に掲載された文章とは関係があると考えられ、実際に *Fanning the Grave* と *The Wife tested* はシリーズの詩として *The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs* (pp.6-22) に再度掲載された。そして、頁数から見ると、その詩集 (25頁) はただその二つの詩を収録する可能性が高いだろう。1873年と同年に彼はある中国戯曲を翻訳した *Jên Kuei's Return. - A Play. [From the Chinese]* という作品を出版しており、翌年この文章は *The Jade Chaplet in twenty-four Beads a collecting of songs* (pp.72-112) に再度掲載された。1882年、晩年のステントはインド時期の生い立ちを整理して追想録、*Scraps From My Sabretasche* を編纂してロン

20) 沈国威 (2011)、『近代英華華英辭典解題』、吹田：関西大学出版部、pp. 162。

ドンで出版した。

おわりに

ステントの学術生涯は長いとは言えない。現在までに捜した資料から判断する限りステントの学歴は高くなく、来華以前は中国語に対して接触もなかったということが明確である。一方で、来華後、ステントは中国語に対して非常に情熱を持ち、語学に対して天賦の才を十分に発揮していた。

初版『字彙』の序言から見て、ステントは最初に中国小説を翻訳したいと思っていたが、中国語に対してより深く勉強するにつれて、やがて翻訳の難点を発見した。

…… However, I found none that I thought would be readable in English, from the subject being either utterly absurd, filthy, or childish; in fact untranslatable; but yet there was a great deal of information to be gained in reading them; many curious customs described, domestic episodes vividly depicted, not generally known to foreigners, but of every day occurrence among the Chinese; combinations of characters, phrases and idioms, that are not met with in other books; ……

ステントは異なる言語間にはある程度翻訳不可能性が存在することを悟る。簡単に言うと、ステントは文化的語彙、口語、俗語、成語この四つ種類の語彙の翻訳不可能性を認識していた。先行研究にこの難点を指摘した研究成果も少しあるが、ステントはこの問題を解決するために、実行に移し、小説翻訳時期に翻訳不可能あるいは翻訳困難な語彙をできる限りに記録して整理し、ついに名著『字彙』を編纂した。諸版の『字彙』と他の諸作品から見て、ステントは言語形式で翻訳できない（語彙を語彙で翻訳できない）が、意味的な翻訳ができる（語彙を語句で翻訳できる）ということ深く理解していた。

一方、ステントは最後まで小説を翻訳しなかったが、1871年からの14年間に彼は大量の中国の詩歌を翻訳して三つの詩集を編纂した。その詩集と一部分の詩歌は当時の『字林報』に一連の宣伝があった。²¹⁾ ステントが詩歌を翻訳する理由の一つは確かに彼がこの詩歌に興味を持っていたことであり、もう一つは彼が外国人に中国の詩歌と民俗を紹介する意欲があったと考えられる。²²⁾

1876年から、ステントは中国文化に対して更に理解を進んでおり、学術的な文章や著書を次々

21) 『字林報』(*The North-China Daily News (1864-1951)*) の 1871.11.9, 1872.10.25, 1872.12.30, 1873.5.23, 1874.2.9, 1874.6.3, 1877.9.25と1883.10.10の刊から見える。

22) 中国詩歌の翻訳理由を *Entombed alive and other songs* の序言部分に少し垣間見ることができる。

に発表した。その中で一番有名なのは「中国宦官」である。残念ながらステントは1884年に病気でこの世を去った。すでに編纂されていた『字彙』の続編（第三版）は出版停止に追いこまれることとなった。²³⁾

23) マックギリブレイとヘメリングの改訂版はすべて遺稿となった第三版の原稿に基づいて編纂したものである。